

評価対象	羅針盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①学校生活を通じて「自分は成長できている」と感じている生徒が85%以上である。 ②生徒会主催の学校行事に対して「主体的に参加している」と感じている生徒が80%以上である。	・授業、学校行事、部活動を楽しみ取り組めるよう、教員は1人1人に寄り添い、ともに試行錯誤しながら生徒が将来の目標を明確にできるようにする。 ・生徒が行事に対して主体的に計画から運営まで携わることで、生徒同士が助け合い、行事を自分事として考えられるようにする。					
	2 生徒の教育再生の場として、学習の取り組み方や社会性を育んでいますか。	③不登校等から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が95%以上である。	・生徒が登校しやすい環境を整えるために、毎日教員からの声かけを欠かさず行い、常にコミュニケーションをしやすい状況を作る。また学力の積み上げによる達成感をもたせ、充実した学校生活を送らせることで帰属意識を高める。					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 ※加筆・修正してもよい。	④生徒の実態を踏まえた学習指導に、生徒の90%以上が満足している。 ⑤授業中、発言などを通して授業に参加していると感じている生徒が80%以上である。	・生徒の実態に配慮しつつも、基礎学力向上を基本に据えた授業を行い、基礎事項習得の大切さを学習を通して学んでいくことで学習意欲の向上を図る。 ・1人で授業研究を行うだけでなく、教員相互の授業参観そして研究を行う中で生徒の実態に合った授業を探し、実践した修正するを繰り返しながら、生徒が主体的に授業に取り組めるような環境を作っていく。					
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。 ⑦学習に対する達成感や満足感を持っている生徒が90%以上である。	・社会と関わる中で必要となるコミュニケーション能力の充実を図ることで、主体的・対話的な態度を身につけられるようにする。 ・授業進度を意識しつつも、振り返りの時間や分からないところに対する質問の時間を設けたり、確認テストを行ったりするなど達成する喜びを実感できるよう工夫する。					
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧全生徒に対する情報交換を月2回実施している。 ⑨悩みを相談できる先生がいると感じている生徒が70%以上である。 ⑩暗くなり始めてライトを点灯するなど、安全な登下校を心がけている生徒が100%である。 ⑪生徒会活動や部活動が充実していると評価している生徒が90%以上である。	・全職員参加で生徒情報交換会を行い、担任からだけでなく授業担当者からも情報をもらい、その情報を共有しながら注意深く生徒を観察する。 ・毎日の登校指導の時に生徒に積極的に話しかけ、生徒が話しかけやすい雰囲気心がけるとともに、生徒の微妙な変化にも敏感に気付くようにする。 ・下校時刻が遅いため、自分だけではなく他者を含め皆が安全に通行できるように早めのライト点灯を呼びかけるとともに、機会があることに交通マナーの徹底を指導する。 ・学年を越えて生徒同士が交流できるような環境づくりに尽力するが、その中で生徒が主体的に活動し、良好な人間関係が構築できるよう、時には見守りなどもする。					
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑫学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取組を進め積極的に進んでいると認識している生徒が100%である。	・毎日の登校指導や月2回の情報交換、そして生徒間の微妙な変化にいち早く気付くよう、教員間で意識しながら生徒と接していく。また定期的にアンケート調査を行い、少しでも多く生徒からのSOSを発信できる場を設ける。						
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬欠席状況が20日未満である生徒の割合が70%以上である。 ⑭交友関係がうまくいっていると感じている生徒が80%以上である。	・基本的な生活習慣が確立できるよう、欠席・遅刻をする生徒とこまめに面談したり、家庭と連絡を取ったりしながら学校中心の生活になるよう指導する。 ・学校行事や部活動を行う中で、学年を越えた生徒同士の交流を図り、生徒同士が互いに支え合う環境を整える。						
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑮進路に関する情報を自ら得ようと努めている生徒が80%以上である。 ⑯担任とは面談週間以外でも積極的に面談を行い、それをもとにしたキャリア教育に関わる講演やセミナーを学期ごとに行っている。	・個別面談を複数回行う中で卒業後の進路に対する興味を引き出し、意識付けさせることで、生徒が自分の進路への関心を高められるようにする。 ・生徒のニーズに合った講演やセミナーを企画し、振り返りを行うことで、生徒の実情を把握していく。					
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑰自分の適性を理解して、進路実現に向けて取り組んでいる生徒が90%以上である。 ⑱アルバイトを含め就業している生徒が70%以上である。	・年2回の進路希望調査を実施し、担任を中心とした面談の中で、自分に合った職業を見つけられるようにする。 ・社会経験を積ませるという観点から、アルバイトを有効に活用してもらいたいと考えているが、生徒の現状を考えるとまずは基本的な生活習慣を整え、それができている生徒に動めるようにする。					
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲定時制課程の教育活動を理解してもらうために「学校見学」を随時受け入れる。 ⑳学校新聞を学期に1回以上発行し、かつWEBページを月1回以上更新している。	・入学説明会を兼ねた学校見学を随時行う。あえて期日を設定しないことで、行こうと思ったその日に来られる、そういう柔軟さも定時制の教育方針であることを理解してもらう。 ・個人情報に注意しながら、様々な行事ごとに記録を残し、その記録を利用して学校新聞を発行したり、WEBページを更新したりする。					
	VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。 11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ICT機器を使った授業が80%以上である。 ⑳資料はデジタルデータで共有化し、職員会議や打ち合わせの紙面資料の配付は行わない。	・授業で生徒がICT機器を使用する機会を増やすことで、ICT機器に関する興味を持ち、またその利便性を学び、自ら使用しようとする態度を育てる。 ・PCやchromebookなどを用いて紙面資料を配布しない。 ・資料をデータで残すことで、次年度以降の引き継ぎをわかりやすいものにし、業務軽減へとつなげていく。				